

教育旅行の受入に関するアンケート調査結果

I 本年度の受入について

1 農家へ宿泊を伴う受入（ファームステイ）はございましたか。

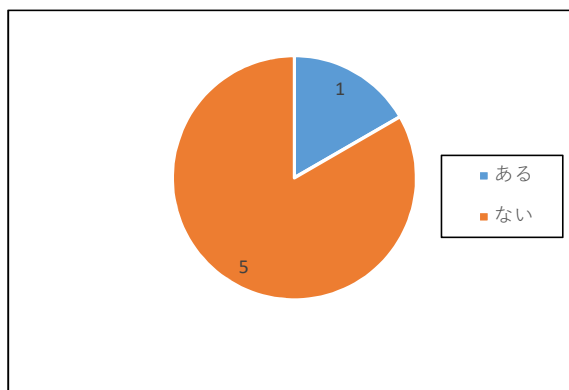
- ① ある

1

- ② ない

5

全受入学校数	2
全受入生徒数	177



2 日帰り農業体験の受入（ファームヴィジット）はございましたか。

- ① ある

3

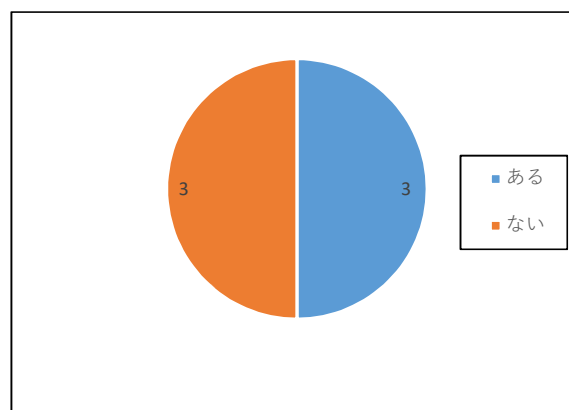
- ② ない

3

全受入学校数	12
全受入生徒数	1409

（上記のうち、農家以外への宿泊の状況）

受入学校数	4
受入生徒数	407



3 本年度の受入に関する対応について記載してください。

・ファームステイ～年度当初は9月からの受け入れを予定して準備を進めていたが、7月のコロナ第7波により予定していた受け入れを全て中止する判断をせざるを得なかった。ファームビジット～年度当初の予定通り受け入れを進め実施することができた。

・3校のうち1校はファームステイを希望していたが、コロナの関係でビジットに。受入農家もコロナの不安があったため農家数の確保があまりできず、1件あたり10名程度の班に分かれて対応。バスで農家宅まで送迎し、5月下旬だったため、畑の草取りや田植えの準備や片付け、苗の定植作業など、できるだけ屋外の広い田畑で密を避ける作業を準備し対応した。ほか2校は、SDGs型の農業体験の受入れ。受入れ農家で体験だけでなく、JA倉庫やコントリーエレベーターなどの見学を踏まえ食べ物が生まれる現場である農村全体を学ぶ体験としてファシリテーターがその案内役となり最後はバスの中で振り返りをおこなった。

・ファームステイ、ファームビジットのオーダー及び問い合わせがいくつかあったが全てキャンセルまたは中止となった。

・一方で美幌自衛隊駐屯の親睦会から今後継続的な有償の農業体験の依頼があったり、外国人農業関係者からの地元農業者との交流事業（有償）のような企画も行われたことから今後の新たな事業展開への広がりも期待している。

・農家への宿泊を伴う受入や日帰り農業体験の受入は、旅行会社（学校）から問い合わせは数件受けていますが、コロナウイルス感染症対策のため、受付予約を停止しており、本年度の受入の実績がありません。

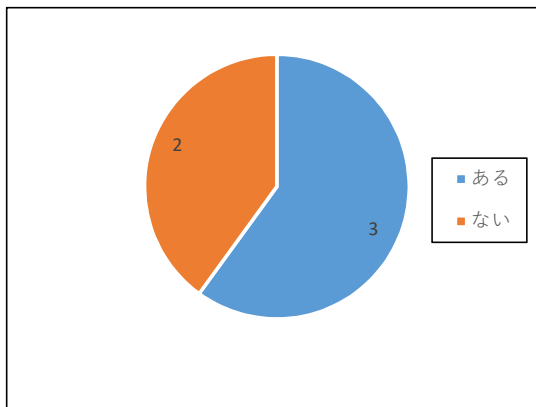
・教育旅行全体としては、本年度は、学校は約30校訪れており、コロナ禍においても学校（旅行会社）の要望に応じ、体験（約1,520人）、昼食（約1,200人）、宿泊（約550人※ホテル・民宿）のプログラムを提供し受入を対応しました。

II 来年度の受入について

1 農家へ宿泊を伴う受入（ファームステイ）の予定（予約）はございますか。

- ① ある
- ② ない

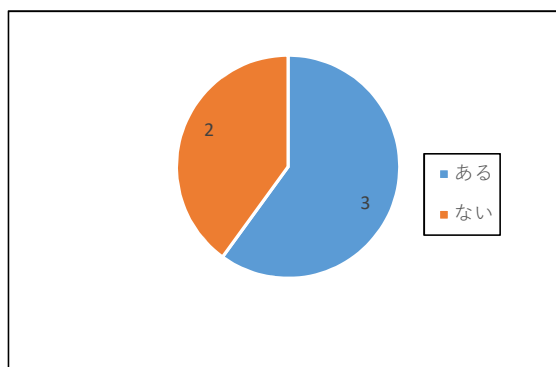
全予約学校数	25
全予約生徒数	3,015



2 日帰り農業体験の受入（ファームヴィジット）の予定（予約）はございましたか。

- ① ある
- ② ない

全予約学校数	9
全予約生徒数	1,743



3 来年度以降の受入に関する対応について現時点の御予定などを記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前の受入方に戻す予定です。各地区の道の駅等での出会いの集い・お別れの集い。それに伴う農家さんでの送迎。1班4名基本など。
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度はファームステイの受入人数上限を80名としたが、受入可能農家数の減少が予想以上だったため厳しい状況となっており、場合によっては旅行会社に他団体への協力依頼の提案やファームビジットへの変更の提案、あるいはキャンセルのお願いをすることになるかもしれない。 ・令和6年度については、当初ファームステイの受入人数上限を50名としたが令和5年度の事前調査の結果を受けて最終的に30名にすることとなった。
<ul style="list-style-type: none"> ・まずは受入れ農家がまだコロナに対して不安があり、受入れ可能な農家の調整と掘り起こしが必要ではあるものの、コロナが落ち着いてきたこのもあり、受入れ方法についてはこれまで通りの受入れで対応をおこなっていく予定。ただ、第5類になったとしても家族経営をしている農家にとっては感染は避けたいところなので、旅行会社等には受入側の都合に合わせてという条件付の提案をしており、ホテル宿泊+日帰り体験のパターンでの受け入れで実施する場合あり。
<ul style="list-style-type: none"> ・受入生徒の体調チェックや手指の消毒、室内でのマスク着用等、基本的な感染予防対策を実施しながら受入を行う予定。
<ul style="list-style-type: none"> ・教育旅行（農村ファームステイ）事業について管内での広域連携に向けた体制作りは現在、津別町さんと本町の2町間で連携体制が整えられておりますが今後、更に広げる活動を継続したい。 ・現在、様々な調整中の案件がありますので前段の1、2同様お答えのしようがありません。

・旅行会社（学校）から問い合わせは数件受けていますが、情報提供にとどまっており、コロナウイルス感染症対策のため、受付予約を停止している状況です。受入農家側は、ファームステイの教育的効果は認識していますが、アフターコロナにおける再開の目途は立っていませんが、受入農家（組織）との協議をしていく必要があります。
教育旅行全体としては、来年度も受入を予定しており、学校数は現時点で25校程となっています。

4 ワクチン接種など状況が変化中、ウィズコロナを見据えた今後の受入において、学校や旅行会社の申込みや問合せで新たな要望や変化がございましたら、記載してください。

・コロナ禍の中でも学校や旅行会社からは、ファームステイをしたいという問合せや要望がほとんどだった。コロナ前、アフターコロナでも農村体験（とくに泊を伴う体験）という農家との交流や食や生きる力を育む教育力という点では、この20年受入れが変わらなかったように、このような農村生活体験は今後もスタイルとしてはなくなるのではないかなと思う。

・2024年度について、ファームステイを取り入れたいという学校（旅行会社）の問い合わせや要望があります。ただし、受入のキャパシティの関係上、オプションでの受入しかできないため、ホテル（宿泊地）の仮予約をして、ファームステイ等受入が可能となった際に、調整する方向で対応しています。

5 今後の教育旅行の受入について、新たに検討している受入手法がございましたら、概要を記載してください。

・現在、農家さん（会員減少に伴い）各団体・協議会でのSNSを使用して、新たな会員獲得。

・受入農家の減少により長沼単独でのファームステイ受け入れ状況が厳しくなっている。そのため、
①他の受入団体との連携を視野に入れた準備をしている。
②以前よりも多くの回数のファームビジットを受け入れるようにしている。

・4でも記載しているように、学校が希望する農家での農村体験、そして受入側も生徒たちへ食や農の魅力と現場を知ってもらうというニーズとシーズの点だけでいけば、この20年変わっていないということは、今後も受入れの手法は変わらないかなと思う。ただ、その手段としての変化は必要かもしれない。1の設問や、次設問でも記載しているが、SDGsや探求学習型のプログラムの要素や、農家だけでなくファシリテーターや受入れ農家といっしょに体験のサポートをするサポーターやアシスタント（エスコーターやインタープリターのような存在）が場面、場面で必要かもしれない。

・これまで同様、ウィズコロナを見据えた安全安心な受入態勢の強化を行うとともに「受入先の拡大推進」と「誘客推進」の同時進行を推し進める。

・日本遺産「鮭の聖地」の物語（根室海峡沿岸地域の一万年のストーリー）の教育旅行への応用。日本遺産「鮭の聖地」の物語の文化を守るを全体テーマとして、「①魅力と現状課題、②標津町での現場体験、③事後学習」を実施を検討中。ストーリーにおける農業に関わる時代「海に、大地に、人々の挑戦は続く」をテーマにした生徒には、標津町での現場体験に、ファームステイやファームビジットを提供し、持続可能性を学びながら、地域振興策や組織の課題を解決する受入手法を検討中。

III 学習指導要領の改正に伴う探究型学習及びSDGsへの対応について

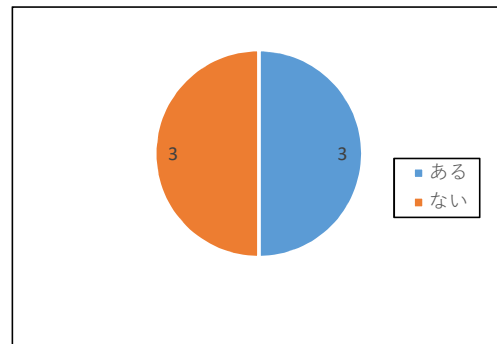
1 探究型学習やSDGsに対応したプログラムを作成しましたか。

① ある

② ない

<プログラム内容>

・現在、深川市にある拓殖短期大学とプログラムを組み、農業体験前に講義など受けれるように来年度から取り組みを進めています。（JTBオリジナル企画）
（受入人数に制限あり）



・「SDGs×食×農プログラム」・・・農家完結型ではない、農家と関連産業（JAや加工所）などが一体となった受入れでファシリテーターが地域や農家を案内しながら体験と学びをおこなう（実施済み）。

・ほか「水育ツアー」（地域の水から農の関わりを調べよう）、「野生動物と人との関わり」（農業の自然と人間の関わり方を鳥獣被害などから学ぶ）、「アイヌ文化と地域の関わり」（先住民族のアイヌの食や暮らし、開拓後の昔の農業といま農業）など

※(公財)日本修学旅行協会発行の月刊誌「教育旅行 2023年11月号」にて寄稿

・本町農村ツーリズム推進協議会の事務局を担う担当部署は農業生産技術及び販売流通に精通する農業振興に取り組む部署であることから、そのことを強みとして農業を軸とした個性や独自性のあるカリキュラムやコンテンツの提供に努めたい。

・町の博物館学芸員と連携したSDGsに関連した体験コンテンツを既に用意しているのをそれを売りにした集客推進も実践していきたい。

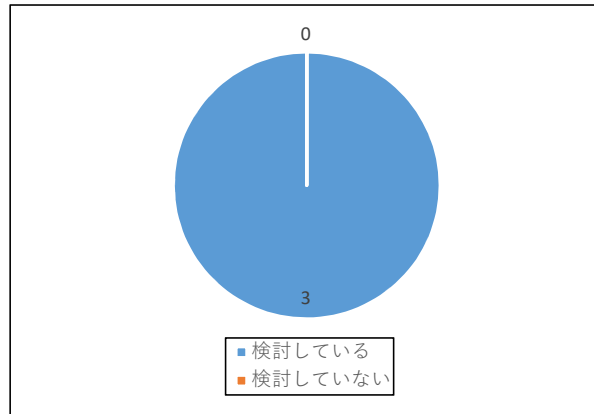
2 【1で②ないを回答された方のみ】今後、探究型学習やSDGsに対応したプログラムを検討されていますか。

① 検討している

3

② 検討していない

0



3 【1で②ないを回答された方のみ】今後、探究型学習やSDGsに対応したプログラムの検討にあたり、支障となっているもの、または、課題となっているものは何ですか。

・見学可能な農業施設等の地域資源の開拓
 ・「探究型学習」やSDGsの地域理解の促進が課題となっている。

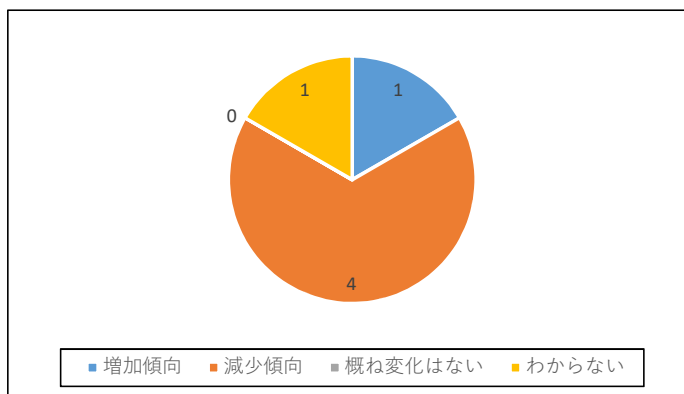
・農泊事業そのものがSDGsに対応したプログラムであると認識しておりますが、旅行会社等に売り込む上で何か目玉になる体験プログラムの創設が必要と感じているので、当町で何かできないかを検討中であります。

・日本遺産「鮭の聖地」の物語をテーマとした教育旅行の作りこみ、マンパワー不足。

IV 受入農家（漁家）について

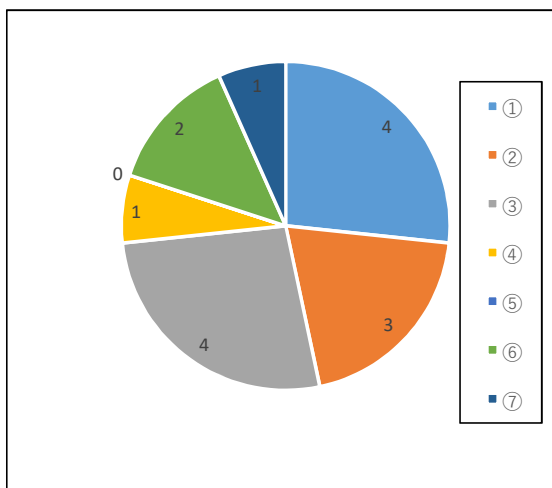
1 近年（ここ2～3年程度）の受入農家（漁家）の状況について変化はありましたか。

- ① 増加傾向
- ② 減少傾向
- ③ 概ね変化はない
- ④ わからない



2 【1で②減少傾向を回答された方のみ】減少傾向の要因として該当するものを選択してください（複数選択可能）。

- ① 高齢化や離農
- ② 本業である農業が多忙による人手不足
- ③ 家庭の事情
- ④ 受入のための食事などの準備への負担感
- ⑤ 労力・負担に見合った収入となっていないため
- ⑥ コロナ感染リスク・負担増から今後の受入を断念（一時的な休止は除く）
- ⑦ その他

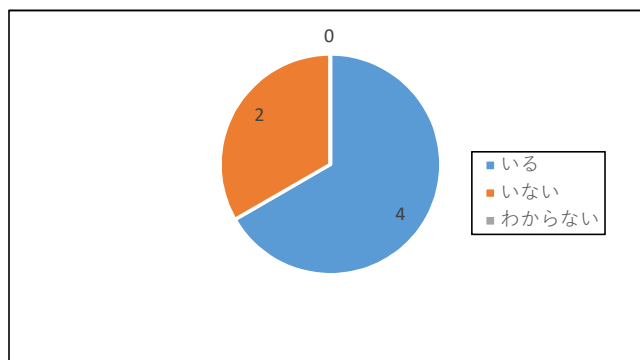


<その他の内容>

・コロナで3年間受け入れをしていないため気おくれする。モチベーションが下がってしまった。

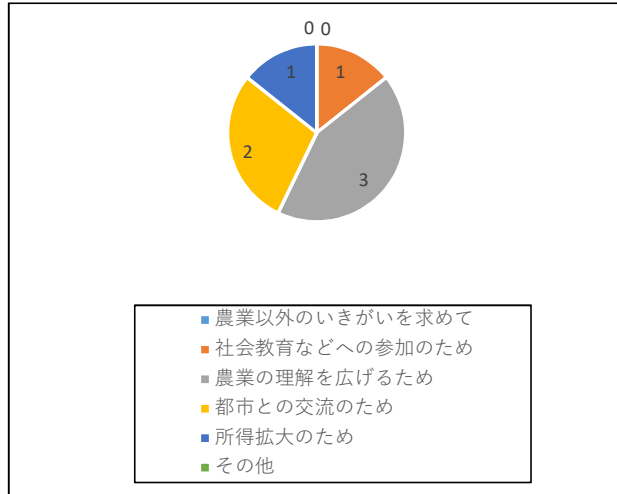
3 近年（ここ2～3年）、新たに受入を始めた農家はいますか。

- ① いる
- ② いない
- ③ わからない



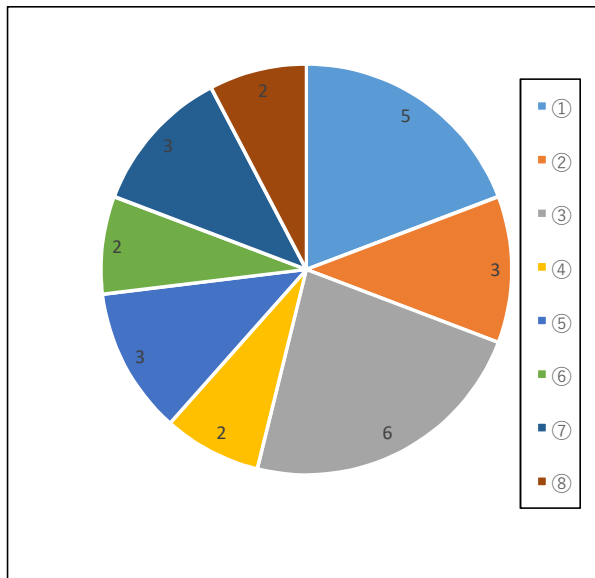
4 【3で①いるを回答された方のみ】新たに受入を始めた農家が、受入を決めた理由と思われるものを選択してください（複数選択可能）。

- ① 農業以外のいきがいを求めて
 - ② 社会教育などへの参加のため
 - ③ 農業の理解を広げるため
 - ④ 都市との交流のため
 - ⑤ 所得拡大のため
 - ⑥ その他
- <その他要因>
- 特になし



5 受入農家を増やしていく（維持していく）ための手法として効果的と考えられるものを選択してください（複数選択可能）。

- ① 地域の代表者などからの勧誘
 - ② セミナーや勉強会の開催
 - ③ JA女性部やJA青年部など
農業団体の組織内での勧誘
 - ④ 受入に係る負担の軽減
 - ⑤ 食事提供や農業体験をサポートするガイドやヘルパーの育成・確保
 - ⑥ 受入時の収益性の改善（受入
人数の拡大や経費縮減方法の確立等）
 - ⑦ ファームステイからファーム
ビジットへの変更
 - ⑧ その他
- <その他の手法>

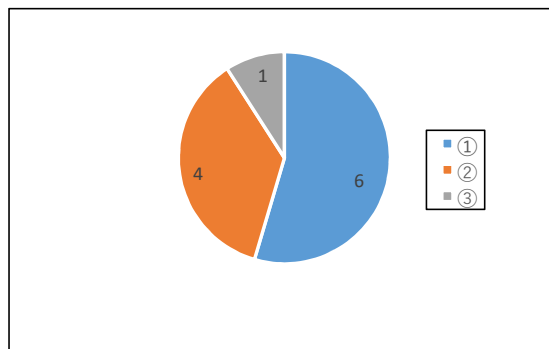


- ・ 熱い思いを持って個別に推進していく人材が地域に複数必要。
- ・ 地域ブランディングを進める中で、受入農家を増やしていく

V 教育旅行受入における地域間の広域的な連携について

1 受入キャパシティ増加の手段として、地域間の広域的な連携により受入れ（または、検討中）を行っていますか。

- ① 連携による受入れを行っている
- ② 連携による受入れを検討している（現在連携している団体で、今後更に連携する団体を追加する場合も含む）
- ③ 連携による受入れを検討していない



※連携団体または連携を検討している団体は別図1を参照

2 【1で③連携による受入れを検討していないを回答された方のみ】連携による受入れを検討しない理由は何ですか。

特になし

3 【1で③連携による受入れを検討していないを回答された方のみ】地域間の広域的な連携に当たり、支障となっているもの、または、課題となっているものは何ですか。

特になし

VI その他

情報交換会において、お聞きになりたい情報、他のコーディネート団体と情報交換したい内容について下記の区分により記載してください。

【行政】

- ・道がこれまで求めていたコロナ対策はどのように変わるのか
- ・補助や助成。また、あらためてまちづくりや観光振興における教育旅行の位置づけや、産業振興や農村振興における農村体験等の位置付け等（農泊、農村ツーリズム関係）

【旅行会社】

- ・学校側はどのような観点で行き先を決定する傾向にあるのか
- ・今後、学校側は受入地域にコロナ対応をどこまで求めるのか
- ・受入れ未地域への行程の提案（道北やオホーツクエリア等）
- ・教育旅行（ファームステイ）受入地域の後進地であるオホーツクでの集客数を高めるには具体的に何が必要かご意見をお聞かせいただきたい。

【情報交換】

- ・現在の他団体の状況・来年度の予約状況・今後の受入方など。
- ・受入農家確保のための取り組みについて
- ・受入地域は学校側にコロナ対応をどこまで求めるのか
- ・インボイス制度への対応について
- ・コロナ禍時、およびアフターコロナにおける受け入れ方法や新たな展開等
- ・コーディネート組織の人材確保をどのように実施しているか。人材を定着させるための工夫を行っているか。

各道内コーディネーター団体所管図

別図1

○現連携団体

① ↔ ③

② ↔ ⑦

④ ↔ ⑤

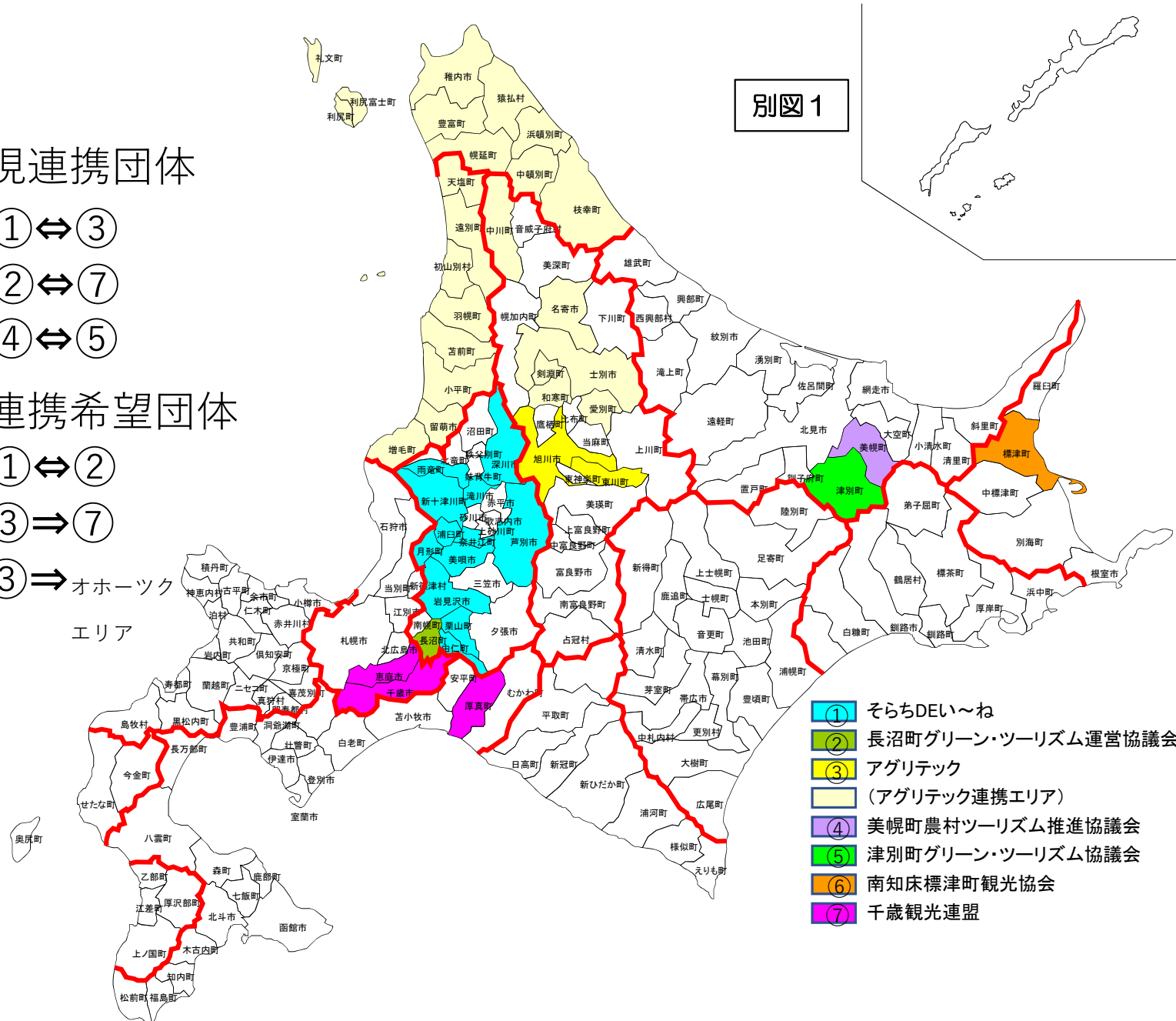
○連携希望団体

① ↔ ②

③ ⇒ ⑦

③ ⇒ オホーツク

エリア



- ① そらちDEい〜ね
- ② 長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会
- ③ アグリテック
- (アグリテック連携エリア)
- ④ 美幌町農村ツーリズム推進協議会
- ⑤ 津別町グリーン・ツーリズム協議会
- ⑥ 南知床標津町観光協会
- ⑦ 千歳観光連盟